

## ○食品に関するリスクコミュニケーション

食べても大丈夫？輸入食品～食品の安全性の確保に向けて～

平成22年12月2日（木）浦添市てだこホール市民交流室において、沖縄県と那覇検疫所の共催で一般消費者を対象とした食品に関するリスクコミュニケーションを開催しました。

基調講演では、東京検疫所食品監視第二課の永山課長が、中国における食品安全問題について現地の組織や法律を紹介し、さらに中国における衛生対策等について現地の状況を踏まえて説明を行いました。

意見交換会では、パネリストがそれぞれの立場で輸入食品に対する取り組みや現状について説明した後、会場からの意見や疑問についてパネリストと意見交換を行いました。

### 【基調講演】

「最近の中国における食品安全の取組について」

東京検疫所 食品監視第二課長 永山裕幸

### 【パネリスト】

厚生労働省東京検疫所 食品監視第二課長

課長 永山 裕幸

厚生労働省那覇検疫所 食品監視課

課長 後藤 成生

沖縄県中央保健所 生活衛生班

班長 桑江 常和

琉球ジャスコ(株) お客様サービス部

部長 藤田 志保実

沖縄県生活協同組合連合会

専務理事 知花 聡

沖縄県PTA連合会

理事 今井 朗

NPO法人 食の風

代表理事 田崎 聡

### 【コーディネーター】

厚生労働省那覇検疫所

所長 柏樹 悦郎



### 輸入食品の安全 取り組みを報告

県主催で意見交換会  
輸入食品の安全性に関する基調講演と意見交換会(県主催、厚生労働省・那覇検疫所共催)が2日、浦添市でだこホールで開催され、約70人が参加した一写真。

基調講演では、厚生労働省東京検疫所の永山裕幸食品監視第二課長が近年の中



国における食品安全の取り組みについて、自身の中国での経験も交えながら話した。

意見交換会では、「輸入食品の安全性」をテーマにさまざまな意見が交わされた。パネリストからは食品の約60%が輸入品である現状から、幾重にも検査を行っていることなど国や県の取り組みが報告された。

主婦の比嘉勝美さん(55)は「初めて知ることが多く、貴重な話を聞くことができ非常に有意義だった」と満足そうに話した。

## 輸入食品の安全性議論

### 県、管理体制を報告

輸入食品の安全性について考えようと、検疫行政や流通業者、消費者による意見交換会(主催・県)が2日、浦添市でだこホール市民交流室で開かれ、輸入食品に対する管理体制の現状などが報告されたほか、消費者の意識啓発の必要性も指摘された。

県中央保健所生活衛生班の桑江常和班長は、中国製ギョーザ中毒事件以降、保健所の食品衛生管理体制が強化されたことを説明。

その上で「これまでは業者への指導が主だったが、消費者からの食品の相談も増えた。中にはカビが生え

たピーナツバターのカビを取り除いて食べていいのかという問い合わせもあった。これはとても危険なこととで、一般の方への食の安全の啓発指導も大切と実感している」と話した。

県生活協同組合連合会の知花聡専務理事は、同ギョーザ事件後に、品質保証再構築計画などの策定でリスク管理を強化したことを挙げ「食品の安全にはかなりのコストをかけて、システムを構築することが必要」と指摘。

琉球ジャスコお客さまサービス部の藤田志保実部長は「輸入品も国産品も安全

性に差はないが、お客さまに安心して買ってもらえるかは難しい課題。販売側としてもジレンマがある」と話した。

消費者側からは、県PTA連合会の今井朗理事とNPO法人食の風の田崎聡代表理事が、中国産の野菜の残留農薬や泡盛に使われているタイ米、中国茶葉の検疫体制や安全性について質問。那覇検疫所食品監視課の後藤成生課長は、輸入食品の検査状況や輸入途中でカビが生えた米を処分したケースなどを説明した。